



- 1.取材は岸産業株式会社本社ビルにて。約二時間じっくりとお話をお聞きすることができました
- 2.だれの目にも経営理念がわかるよう掲げられ整理整頓された工場
- 3.業績好調に伴い拡大中の工場
- 4.職人さんの手で一点一点丁寧に作られている商品
- 5.ネクタイを美しくめ取材がスタートする瞬間



やK's Travel Agencyという旅行会社も立ち上げたのです。わたしも小学校のときに絵の買いつけでイタリアに連れて行ってもらったりもしました。しかし「岸産業を継ぐんだぞ」と父からは一言もいわれたこともなく、多忙な父は家に帰ってくるのも遅かったので、父はいつたい何をする会社をしているのだろう…と当時は思っていたものです。しかし高校生のころバブルがはじけ景気が一気に悪くなります。画廊や旅行会社の継続は難しくなうたうえに建築業界は冷え込み、さらにHOSHIZAKIさんなどの大手も業界参入し仕事も激減していきました。多くを語らない父だったので、そこまでの窮状になっていることをわたしは知りませんでした。大学生のころ父が「将来どう考えてる？」と聞いてきました。「おじいちゃんが立ちあげ、お父さんが守ったから、自分もチャレンジしたい」と答えると父はこう言いました「会社たまたうかと思ってる」父の様子を見ていて「良くはないだろう」というのは察しがついていました。が、まさかそこまでとは思っていませんでした。でもそのコトバが決め手になり岸産業に戻ることにしたのです。今から25年前2000年の春のことでした。でも入社をしてからも父は「現状をよくみる、お前もよく考えろ、こんな業績悪いのにこれからもしんどいだけや」と言ってくる。実際に暇すぎる工場では仕事がなくストープで餅を焼いている。でもそんな様子をみればみるほど「なにをする会社なのかまだよく分からない。自分がこれから出来るのかどうかもわからない、でもこの岸産業の灯りを消すのは絶対にイヤだ。岸産業あつての

岸家、会社がなくなるのは故郷がなくなるのと同じ、自分が守らないとあかん」というなにより使命感めいたものがわいてくるのです。当時の岸産業は社員が18名ほど、入社して最初に思ったのは「THIE昭和やな。こんな世界まだあつたんや…」工場も今のように綺麗でなく18名の社員もほぼ職人、そこにあつたのは上下関係の厳しいタテ社会でした。

選ばれていないのは品質や金額が原因ではないんや

最初の配属は製造。木を切り、枠の化粧にステンレス板を曲げ、パネルを合わせ、金物を取り付ける。図面は平面ですが現場は立体。最初は戸惑うことが多かったのですが、段々と出来ないことが出来るようになり、なにもないゼロから物を作りだしていくことに、すく面白さと充実感を感じました。工場長もすく親切に教えてくれ。先輩職人の腕に近づいていくのが実感できる！そんな充実した日々を一年半ほど過ごしたあと営業に変わりました。その頃には会社の全体像がみえてきていたので感じることが色々ありました。そこで社長である父に意見をすると「部分だけみてわかったような口をきくな。まだなににもわかってない」反発する私は「はあ？現場のこと何もわかっていないのはアナタや」と喧嘩して衝突する毎日がはじまりました。

営業にいった初日、取引先に言われたのは「岸さんとはは発注できません」「どうしてですか？」と聞くとこう言うのです「岸さんこの職人さんは集合時間8時

の現場に9時に来るしヘルメットは持っていない」よくきくとその会社はもともと弊社の取引先で仕事をこちらから出していたほう。それが時代の変化で「顧客」になり今度は弊社がもう側に変わっていたのです。しかし態度だけは昔のまま、殿様商売のクセが抜けていない。それは発注できんわと思つたと同時に安心しました。「そうか選ばれていないのは品質や金額が原因ではないんや」。私自身、現場で一年半やったので品質の高さは実感している。時間とかヘルメットとかそんなことで売れないのは残念すぎる。もつとお客さまに寄り添っていく会社しよう！と思つて改革しようとするのですがなかなか進みません。現場は8時スタートやから8時にいきましよう！と書いても「8時に岸産業でスタートし、そこから移動するのがうちのやり方や！8時に行きたいんやたらオマエが1人で行ってこい！」と先輩職人さんに怒鳴られ仕方なく1人で現場にいき段取りを聞き、あとからきた職人に伝えることから始めました。

「やりつづける姿をみせ言い続けるしかない」そう決断し、このままではうちの会社の将来はない、もつとお客さまに寄り添い喜んでもらえる会社になろう！と毎日言いづづけました。ラッキーだったのは、父が採用したベテラン世代が引退し、あたらしい世代への交代が始まつたこと、いま工場長を任せている浜口はほぼ同じ年齢なのですが、そうした同世代のメンバーと腹を割つて話し、岸産業の目指す姿や行動規範などを作り実践していききました。ここはベテラン世代に心から感謝する所なのですが、先人の作ってくれた技術力の高さがベースにあつたので、価値の伝えかたを変え